

2 景観計画策定に関するアンケート調査（住民が対象）

（1）調査の概要

- ・ 回答者：八重瀬町景観写真展の来場者
- ・ 調査期間：平成23年2月28日（月）～同年3月4日（金）
- ・ 回収数：22件

（2）調査結果

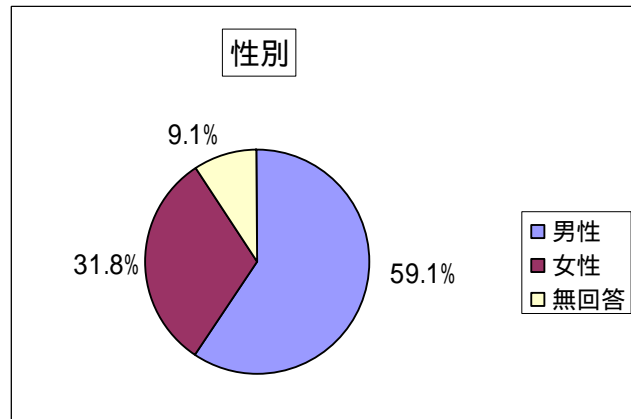
1）回答者の属性

性別

「男性」（59.1%）が6割、「女性」（31.8%）が3割を占め、男性の割合が高い結果となった。

性別

	票	%
男性	13	59.1%
女性	7	31.8%
無回答	2	9.1%
合計	22	100.0%



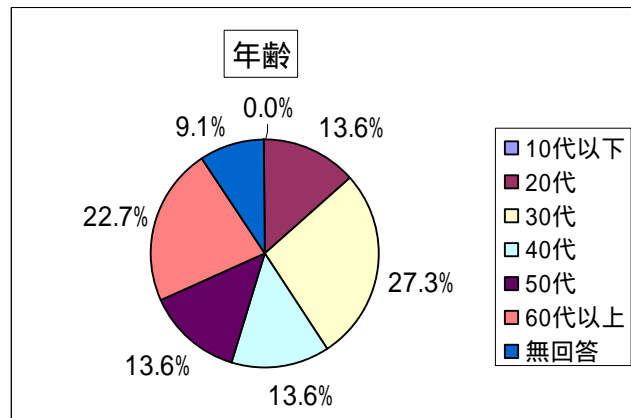
年齢

「30代」（27.3%）が最も多く、続いて「70代以上」（22.7%）で、「20代」「40代」「50代」（13.6%）は同数であった。

「10代以下」の回答者はいなかった。

年齢

	票	%
10代以下	0	0.0%
20代	3	13.6%
30代	6	27.3%
40代	3	13.6%
50代	3	13.6%
60代以上	5	22.7%
無回答	2	9.1%
合計	22	100.0%



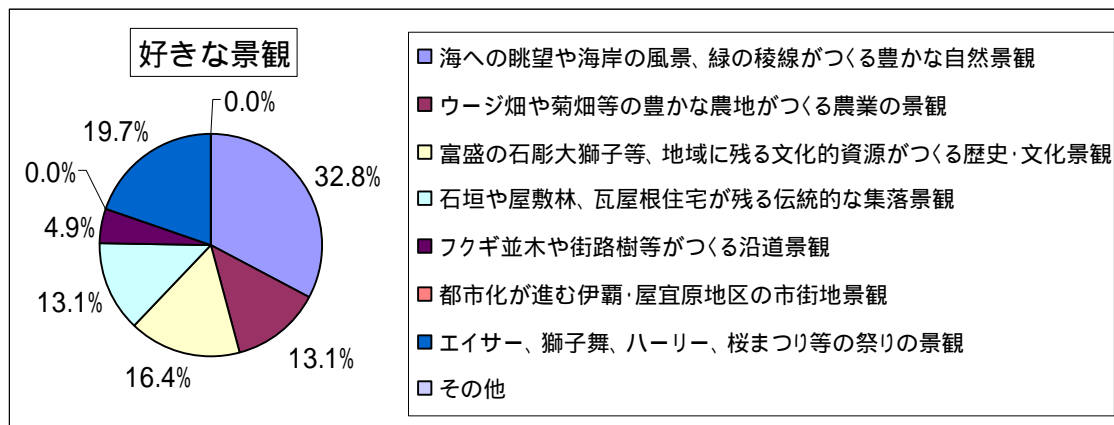
2) 景観について

問1 . 八重瀬町であなたが好きな景観のある場所はどこですか？(3つまで)

「海への眺望や海岸の風景、緑の稜線がつくる豊かな自然景観」(32.8%)が3割強を占め、全回答者の9割が好きな景観だと答えた。続いて「エイサー、獅子舞、ハーリー、桜まつり等の祭りの景観」(19.7%)、「地域に残る文化的資源がつくる歴史・文化景観」(16.4%)の順となった。

問1 八重瀬町で好きな景観

	票	%	回答者比
海への眺望や海岸の風景、緑の稜線がつくる豊かな自然景観	20	32.8%	90.9%
ウージ畑や菊畑等の豊かな農地がつくる農業の景観	8	13.1%	36.4%
富盛の石彫大獅子等、地域に残る文化的資源がつくる歴史・文化景観	10	16.4%	45.5%
石垣や屋敷林、瓦屋根住宅が残る伝統的な集落景観	8	13.1%	36.4%
フクギ並木や街路樹等がつくる沿道景観	3	4.9%	13.6%
都市化が進む伊覇・屋宜原地区の市街地景観	0	0.0%	0.0%
エイサー、獅子舞、ハーリー、桜まつり等の祭りの景観	12	19.7%	54.5%
その他	0	0.0%	0.0%
合計	61	100.0%	



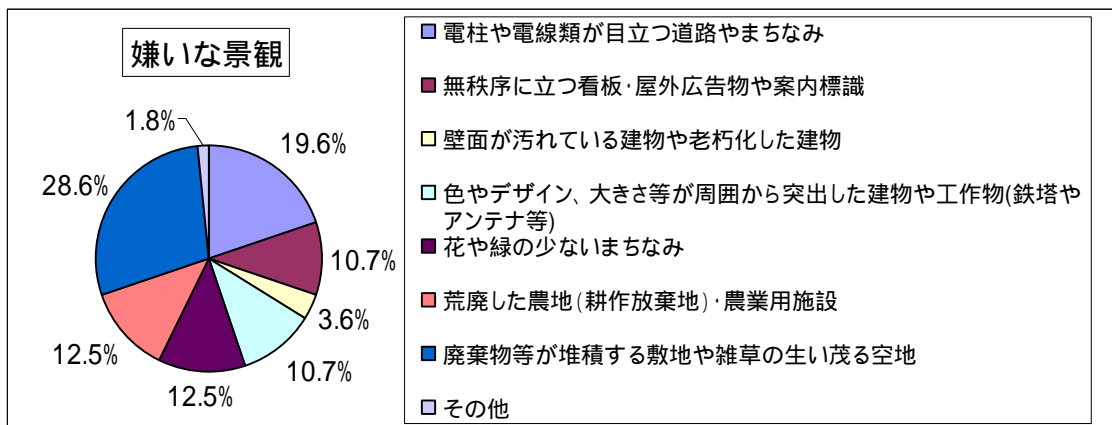
問2 . 八重瀬町であなたが嫌いな景観のある場所はどこですか？（3つまで）

「廃棄物等が堆積する敷地や雑草の生い茂る空地」(28.6%)が3割弱を占め、全回答者の7割強が嫌いな景観だと答えた。続いて「電柱や電線類が目立つ道路やまちなみ」(19.6%)、「花や緑の少ないまちなみ」「荒廃した農地(耕作放棄地)・農業用施設」(12.5%)の順となった。

「その他」では「歩きにくい歩道」(1票)が挙がった。

問2 八重瀬町で嫌いな景観

	票	%	回答者比
電柱や電線類が目立つ道路やまちなみ	11	19.6%	50.0%
無秩序に立つ看板・屋外広告物や案内標識	6	10.7%	27.3%
壁面が汚れている建物や老朽化した建物	2	3.6%	9.1%
色やデザイン、大きさ等が周囲から突出した建物や工作物(鉄塔やアンテナ等)	6	10.7%	27.3%
花や緑の少ないまちなみ	7	12.5%	31.8%
荒廃した農地(耕作放棄地)・農業用施設	7	12.5%	31.8%
廃棄物等が堆積する敷地や雑草の生い茂る空地	16	28.6%	72.7%
その他	1	1.8%	4.5%
合計	56	100.0%	



問3．あなたが考える八重瀬町のまちや景観のイメージは？（記入回答）

「緑」「自然」「畑」「田園と都市」「歴史・文化」等に関するキーワードが多く、豊かな自然があり歴史・文化を継承する農村集落をイメージする意見が多く挙がった。

一方で、景観や建物に統一感がない、イメージしにくいという意見もあり、八重瀬町として景観まちづくりの方向性をきちんと定めていく必要がある。

緑

- ・ 緑の多いまち
- ・ 緑の多いまち
- ・ 緑と風が通るまち

自然

- ・ 自然景観としては、具志頭～多々名城の樹林地帯（地下を含む）と地形
- ・ 雄樋川沿いの森林（地下を含む）

畑

- ・ 農村風景
- ・ 田舎（畑）の特徴・色を生かした風景
- ・ 整備されて供用されている農地、田園風景

田園と都市

- ・ 田舎と都会が融合したまち
- ・ 具志頭地区は開発をせず、今の田園を残す。東風平地区は都市化を進める。
- ・ 緑や畑、都市
- ・ 豊かな緑を残しつつ、都会機能を備えた街

歴史・文化

- ・ 文化歴史と自然が残るまちなみ
- ・ 伝統芸能の盛んなまち

その他

- ・ 花や風景を楽しめる町
- ・ 元気のある町
- ・ 静けさのある町
- ・ 落ち着いた住宅地
- ・ 建物に統一感のないまち
- ・ 景観に統一感がない
- ・ 正直イメージがしにくい町である

問．景観づくりについてあなたのご意見・ご提案をお書き下さい。（自由記入）

景観づくりに関しては、八重瀬町特有のものを含めた自然景観の保全や、建物の高さ規制、不法投棄の撲滅、街路樹等についての意見があった。

景観づくりを含めたまちづくりに関しては、行政のリーダーシップへの期待や住民参加に関する意見が見られた。

また、東風平地域と具志頭地域の格差を指摘する意見もあった。景観要素としての田園と都市の融合と、都市機能の平準化のバランスを考慮して、総合的なまちづくりを進める必要がある。

自然の保全

- ・地下景観は他市町村にはないものである
- ・自然を残した情緒あふれる緑の景観を残してほしい
- ・人工的設備の増加ではなく自然を生かして

建物の高さ規制

- ・建物の高さに制限がほしい。

不法投棄の撲滅

- ・まずは、不法投棄やゴミを何とかしなければならない

街路樹

- ・もう少し街路樹に花木があってほしい

歴史資源の看板設置

- ・歴史のある史跡の説明を書いた看板を設置してほしい

まちづくり

- ・景観づくり、まちづくりにはある程度行政等で主導していく必要があると思います。景観行政団体への移行を期待します。
- ・もっと意見を集めたい
- ・南城市、八重瀬町と合併したので、町民を巻き込んだ元気のある町を目指していただきたいと思います。癒される町であってほしいです。

東風平と具志頭の格差

- ・東風平と具志頭は差がありすぎる??最近、東風平は都会で具志頭は40年前と変わらない!!

3 まちづくり関係団体ヒアリング調査（住民及び事業者が対象）

（１）ヒアリングの概要

商工会

- ・日 時：平成 23 年 2 月 28 日（月）11:00～12:00
- ・参加者：商工会 14 名、都市建設課 2 名、コンサルタント 2 名

青年連合会

- ・日 時：平成 23 年 2 月 24 日（木）19:00～20:30
- ・参加者：青年連合会 6 名、都市建設課 2 名、コンサルタント 3 名

1）ヒアリングの目的と方法

景観づくりには数十年の長い時間と地域住民や事業者、行政等による継続的な取り組みが必要となる。

地域住民や事業者の代表で組織されるまちづくりに関係する各団体に対して、景観の知識・認識を深めてもらうとともに、それぞれの立場からの景観形成に関する思いや意見を聴取するため、グループインタビュー形式でまちづくり関係団体ヒアリング調査を行った。

（２）ヒアリング結果

1）商工会

八重瀬町景観計画策定の留意点

住民等への周知・合意形成	<ul style="list-style-type: none"> ・住民への十分な周知と合意形成が必要である ・具体的な事例を示しながら、住民への周知を図った方が良い ・強すぎる規制をかけると、住民等との合意形成が難しい
景観形成基準（行為の制限）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性に応じて地域毎に異なる基準を検討した方が良い ・農村の生活に合った緩やかな規制づくりが望ましい ・あまり住民等の負担にならない規制が望ましい ・瓦ぶきの傾斜屋根は、災害時に屋上避難ができない。安全・安心と景観とのバランスを考慮する必要がある。 ・水は上から下へ流れるので、水タンクを下に置くとポンプアップする必要がある。上に置いてきれいに見せる工夫をした方が良い。
モデル地区	<ul style="list-style-type: none"> ・目に見えて実感できるように、景観形成のモデル地区があった方が良い（伊覇・屋宜原地区等）
河川整備	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の河川は殆どがコンクリート三面張りである。石積みに改修した方が良い。

地元建材の活用	・ 地元の石材（粟石）を港川人と関連付けて活用を図りたい。 届出対象行為（土石の採取）にかかる懸念がある。
産業振興	・ 景観計画が産業振興のための計画となるよう、目的についても議論する必要がある

2) 青年連合会

八重瀬町の好きな景観等

箇所等	理由、備考等
八重瀬岳	
具志頭城址からの眺望	・ 晴れた日の景色や初日の出が良い
ギーザバンタ	・ 水が冷たくてつかると気持ち良い隠れスポットがある
海への眺め	
サトウキビ畑（2票）	
富盛の石彫大獅子	
電照菊（夜）	・ 安里の電照菊畑（キクミネーション）
昔ながらの赤瓦屋敷	・ 昔ながらのカーラヤー
新城公民館	・ 1年の半分を過ごすので落ち着く
大門商店	・ 新城集落のメイン通りにあるマチャークワー
エイサーの道ジュネー（2票）	・ 具志頭公民館の旧盆最終日の風景（観衆として住民が沢山集まる） ・ エイサー廻りで、安里集落の全ての家を2日間で廻る。夜12時から朝まで。
エイサーの練習風景	・ 旧盆の前になると、夜8時頃からエイサーの練習の音（太鼓）が聞こえてくる。普段の静けさとのギャップがある。
伝統芸能（6票）	・ 集落全体で盛り上がる ・ 地域でお互いの顔が分かり、挨拶できる。つながりが生まれる。 ・ 自分達の子供にも引き継いでもらいたい

景観を阻害している要因

墓地	・ 八重瀬岳のタンク裏に、業者による建売の墓地がある。買っているのは町内の人ではないと思う。
ゴミ	・ ぐしちゃん浜から玻名城の郷ビーチにかけての漂着物 ・ 不法投棄（ぐしちゃん浜） ・ 昔は玻名城の郷ビーチに泳ぎに行ったが、今は人がいない

	(維持管理できない状態にある)
落書き	・ザ・サザンリンクス下の建物は落書き・ゴミがひどい
雑草	・海へ行く道は、草刈等整備されていた方がよい
ぐしちゃん浜にたむろする人々	・浜シンカーと呼ばれている
夜遅くまで酒を飲んで騒ぐ人々	・エイサー練習後等、公民館で酒を飲んだりするが、夜遅くまで騒いでいるのは良くない
道の真ん中を走行する自転車	
狭隘道路の駐車車両	・トラックが駐車場代わりにいつも狭い道に停めている
牛舎の糞尿	・雨の後、川に流れていく。処理がきちんとできていない。

伝統芸能の保存の課題

人材の確保	・人が減っている。昔は集落の青年会に同級生が15人程いたが、今は2、3人程度である。
新しい技等の導入	・糸満市等の他地域へ教えに行く際、こちらも1つ習ってくる(新しいモノを取り入れる)

八重瀬町の将来像

ビーチの活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 玻名城の郷ビーチをもっと利用しやすく整備し活性化につなげる ・ そのために自分達ができること <ul style="list-style-type: none"> ゴミ拾い 泳いで自分達が海の良さを知る 浜でエイサーを踊る(イベントによる集客) ルールをつくり、守る
保全と発展のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地域に残っている伝統あるモノ(エイサー、祭り、家等)を残しながら発展させる ・ 利便性(買物)の向上と伝統保存の両立のバランスが取れたまち ・ 具志頭地域は、変わりすぎるのもイヤだ
予算確保	・ まちづくりには、町の予算確保が重要である
ルールづくり	・ まちづくりの基準となるルールづくりが必要である



【商工会ヒアリングの様子】



【青年連合会ヒアリングの様子】

4 庁内関係課ヒアリング調査（町職員が対象）

（１）ヒアリングの概要

- ・日 時：平成 22 年 12 月 2 日（金）10:00～12:00
- ・参加者：企画財政課 4 名、行政経営課 2 名、経済課 1 名、社会教育課 2 名
都市建設課 2 名、コンサルタント 2 名

1）ヒアリングの目的と方法

景観形成は、担当課が独自で進めるものではなく、町の長期的な計画として、庁内の関係課の横断的な連携を図りながら総合的に進めていく必要がある。

そこで、景観形成に対する関係課の意見を聴取するため、グループインタビュー形式で庁内関係課ヒアリング調査を行った。

（２）ヒアリング結果

八重瀬町らしさ	都市と田園の混在	<ul style="list-style-type: none"> ・田園都市風景（東風平） ・集落、海（具志頭） ・都市と田舎の混在 ・田園風景の中に中心市街地がある ・農村と都市が混在している ・都会（伊覇・屋宜原地区）と田舎（具志頭）が混在している ・国道 507 号沿いの区画整理地区が都市化して今後発展する ・具志頭は都市計画区域外なので、風景を保全できる計画づくりを期待する
	農村漁村	<ul style="list-style-type: none"> ・農村で農作物が盛ん、港川漁港の海んちゅのまち（具志頭） ・ピーマン、オクラ等が拠点産地の指定を受けている ・カラフルベジタブル（ピーマン、オクラ、紅芋、ドラゴンフルーツ等の色とりどりの野菜）
	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラパゴス的に海岸線や緑地帯が手つかずで残っている
	歴史・文化・芸能	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化が盛んなまち（東風平） ・旧八月十五夜の村祭りがとても盛ん ・伝統芸能が盛ん（旧七月の綱引き、旧八月の豊年祭） ・地域の伝統行事（エイサー、綱引き等） ・石獅子が沢山残っている ・独自の発展を遂げている文化も数多く残っている
	交流・混在	<ul style="list-style-type: none"> ・南部の中心であらゆる文化の交流拠点 ・古い文化が残る、古いモノ・新しいモノがある
	コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・人・周りとのつながり

自慢できる景観	八重瀬岳	<ul style="list-style-type: none"> ・八重瀬岳の傾斜地の緑地帯 ・八重瀬岳から見る農村の風景 ・八重瀬岳から見る夜景（東風平側） ・八重瀬岳の桜のライトアップ（1月）
	海	<ul style="list-style-type: none"> ・高台からの180度の海岸線パノラマ ・具志頭城址から見た海・海岸線の美しさ ・具志頭城址から見る海岸線
	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・各集落の小高い丘（森） ・カサノリの自然群生（リンクス）
	歴史・文化・芸能	<ul style="list-style-type: none"> ・8月のエイサーの時期は、各公民館に提灯が配置され、祭りの雰囲気がある
	産業	<ul style="list-style-type: none"> ・具志頭中学校から見える電照菊
	都市基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・飛行機から見た、土地改良で四角く整備された農地、東西・南北に真っ直ぐな道路
	静けさ	<ul style="list-style-type: none"> ・田園風景の静けさ ・夜の静けさ
	音の風景	<ul style="list-style-type: none"> ・ウージ畑が風にざわつく音は涼を感じる（夏） ・就寝時に波の音が聞こえる（具志頭） ・夜にエイサーの練習の音が聞こえる（8月）
悪い景観	不法投棄	<ul style="list-style-type: none"> ・見えないところに不法投棄が多い（八重瀬岳、具志頭浜）
	墓地	<ul style="list-style-type: none"> ・世名城の崖の下の方に墓の違法建築があり、今後、墓地公園の必要性が出てくる
	色彩	<ul style="list-style-type: none"> ・地区計画では住宅の外観の色は制限できない（基準がない）。どのように色彩の共通認識を持たせて色を決めていくかが課題である。 ・企業誘致と色彩規制との兼合いがある。住宅は規制ありで企業は無しとはできない。 ・南部水道局がタンクをつくる際、濃い緑色での設計図を持って来るが、規制はできない
	鍾乳洞	<ul style="list-style-type: none"> ・字具志頭には貴重な鍾乳洞が多く、戦争体験として平和学習の場に使われている。現状では、ゴミは落ちてもお金が落ちない状況で、デメリットの方が多い（トイレの電気料・水道料）。景観計画に位置づけて利活用してはどうかと思う。
	電線等	<ul style="list-style-type: none"> ・伊覇・屋宜原地区、タウンセンターゾーンは電線地中化を計画しても良いと思う

自分の課の仕事と景観計画との関連性・留意点	企画財政課	<ul style="list-style-type: none"> ・規制をかけすぎると発展性がなくなる。景観計画とうまく密着して、誘導と規制をバランス良く進めることが大事である ・将来的に景観計画に基づいた要綱や基準等をつくり、まちづくりに活かしていければ良い ・具志頭は都市計画法の規制外なので景観法等の規制は必要だが、規制をかけすぎると土地の転売及び迷惑施設の立地が懸念される ・住民に地域の良さを分かってもらうため、根気よく説明していくことが行政の役目である ・自衛隊基地の恩恵を受けている部分もあるので（コミュニティ施設改修は防衛省補助）、バランスを考えて計画する必要がある ・暗がりなたまり場になりやすいが、防犯灯が多く夜に明るい田舎の風景とは違ってくる ・利便性・防犯性を確保しながら、どこまで良い面を残していくかの線引きが重要である
	行政経営課	<ul style="list-style-type: none"> ・景観資源の保全で将来的な利益（メリット）を誰が得るのかを明確にできたら、規制を受ける側の納得を得やすいと思う ・行政の景観計画と地域住民のイメージがどこまで近づけられるか、プロセスに時間がかかり難しい計画だと思う
	経済課	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境及び観光資源保全条例で、玻名城の海岸線を特別保全地域に指定しようと考えている。恐らく建物の規制は含まれない。自然公園法の区域なので、自然公園法の制限がかかる（高さ制限は13m以下、建てる場合は景観に配慮した色彩） ・景観計画の方向性によっては、自然環境及び観光資源保全条例の加筆修正等もある
	社会教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・拝所を整備すると、維持管理する人が集まらなくなり、重要性が失われてしまう ・文化財の本来の役割や意味が分かるよう、一部でなく全体が残せる方向性が良い
	都市建設課	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画の規制、道路、公園等が景観と関連性がある ・財政面で景観行政だけに偏らず、総合的に考えながら計画していく ・道路景観を良くするための植栽帯が、維持管理に手がかかる（問題点） ・道路や公園をつくる場合、地域住民は伝統や景観をあまり重んじない現状がある

	<ul style="list-style-type: none">・地域の生活の質的向上に配慮しつつ、石積み等の古いモノをいかに残すかが課題である・赤瓦等の固定資産税の軽減が必要である・夜、高台の自衛隊基地が目立つため、景観的に抑制できる規制があれば良い
--	--



【ヒアリングの様子】

5 上位・関連計画策定時のアンケート調査及びワークショップからの 景観に関する意見の整理

本町は合併後、八重瀬町としての新たなまちづくりの方針等を示すべく様々な計画を策定してきた。それらの策定にあたってはアンケートやワークショップ等を行い、住民意見の把握に努めてきた。上位・関連計画策定時に収集してきた住民意見から、景観に関する意見を抽出し整理する。

(1) 総合計画アンケート

1) 調査の概要

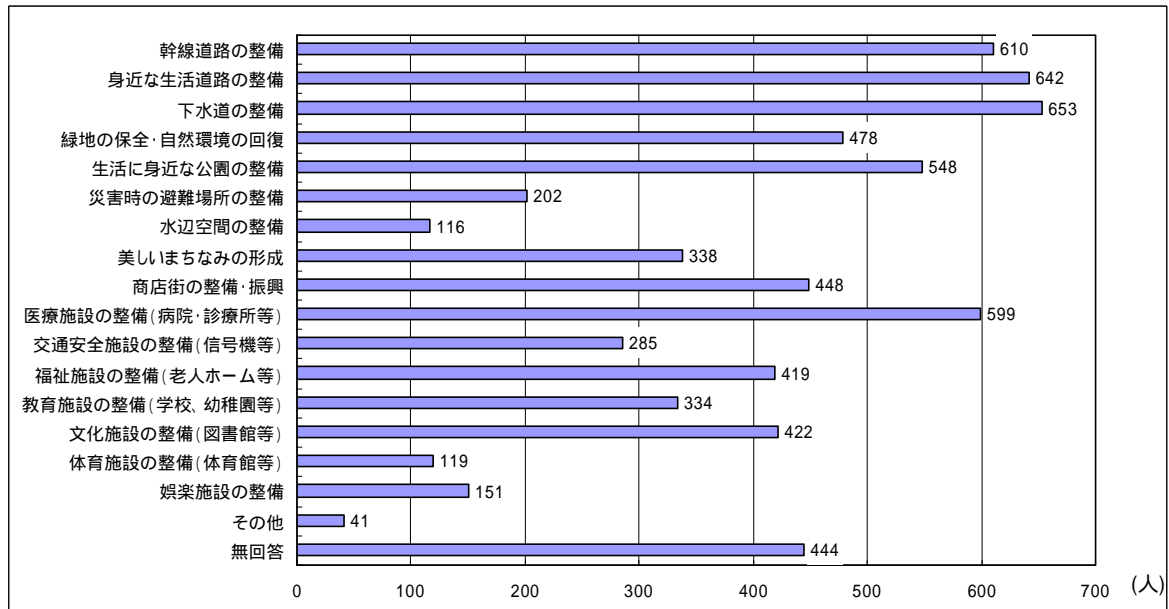
- ・対象者：全世帯の18歳以上の代表者
- ・調査期間：平成19年4月～同年5月16日
- ・回収率：33.6%（配布数8,300通、回収数2,792通）

2) 調査結果

生活基盤

本町の生活基盤の準備を進めていくにあたり、力を入れるべきことについては、「下水道の整備」(653人)が最も多く、次いで「身近な生活道路の整備」(642人)、「幹線道路の整備」(610人)の順となった。

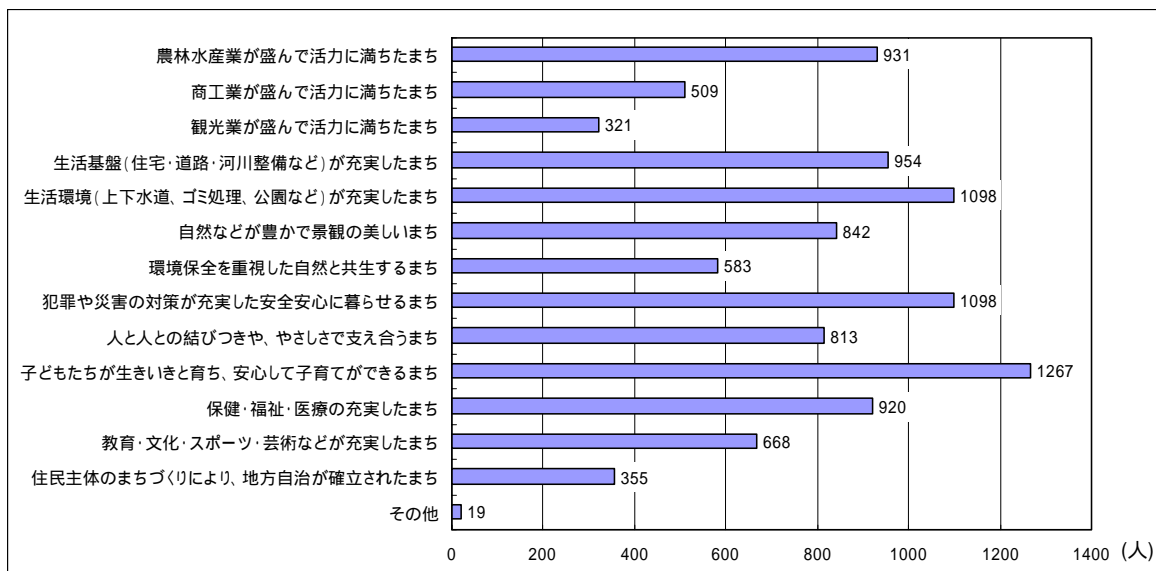
「美しいまちなみの形成」(338人)は17項目中10位であり、回答者の12.1%が重要だと答えている。



今後のまちづくりの特色

今後のまちづくりを推進する上で、どのような特色のあるまちにすべきかについては、「子どもたちが生きいきと育ち、安心して子育てができるまち」(1,267人)が最も多く、次いで「生活環境(上下水道、ゴミ処理、公園など)が充実したまち」「犯罪や災害の対策が充実した安全安心に暮らせるまち」(ともに1,098人)の順となった。

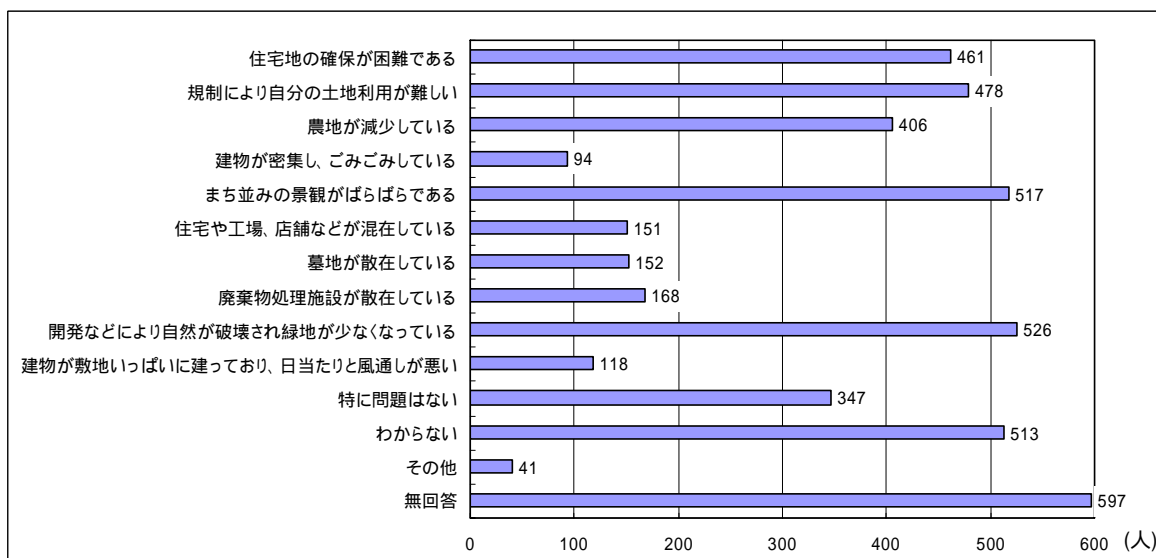
「自然などが豊かで景観の美しいまち」(842人)は14項目中7位であり、回答者の30.2%が重要だと答えている。



土地利用の問題点

本町の土地利用の問題点については、「開発などにより自然が破壊され緑地が少なくなっている」(526人)が最も多く、次いで「まち並みの景観がばらばらである」(517人)、「わからない」(513人)の順となった。

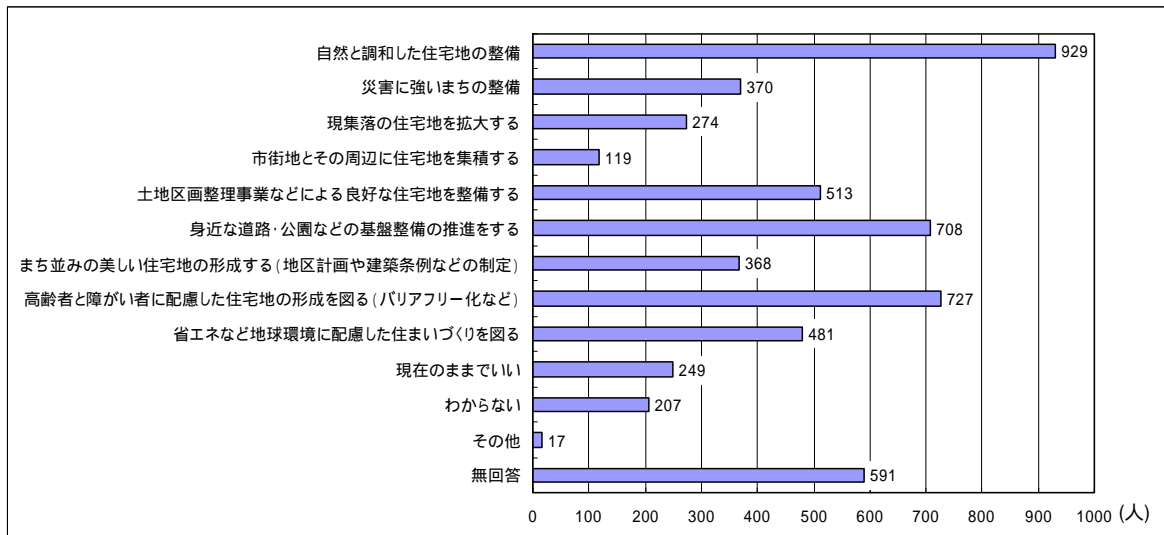
「まち並みの景観がばらばらである」(517人)は13項目中2位であり、回答者の18.5%が問題だと答えている。



住宅地の整備

住宅地の整備については、「自然と調和した住宅地の整備」(929人)が最も多く、次いで「高齢者と障がい者に配慮した住宅地の形成を図る(バリアフリー化など)」(727人)、「身近な道路・公園などの基盤整備の推進をする」(708人)の順となった。

「まち並みの美しい住宅地の形成(地区計画や建築条例などの制定)」(368人)は12項目中7位であり、回答者の13.2%が重要だと答えている。



自由意見からの景観に関する意見

【景観資源】

八重瀬公園から見る景色、上田原の高台から見る那覇・南風原方面の夜景 等

【景観形成に関する提案】

海・自然の美しさを活かしたまちづくり、自然環境を守りつつ住み良いまちづくり、各集落の伝統を大事にしたまちづくり、花いっぱいのまちづくり、
今ある自然を保全しながら開発を進める、緑豊かな現在の八重瀬町が良い、
農耕地が減りアパートが建ち並ぶ様は田園都市にふさわしくない、
自然のままで人間らしい暮らしのにおいのするものを観光に活かす、
景観の素晴らしい場所を活かした癒しの施設の整備、花を見て楽しめる場所の整備、
案内板の整備、八重瀬のシンボルとなる木の植樹、フクギ並木の延長、拝所の改修、
道の草刈り・清掃、道路沿いの緑化・美化、ゴミ拾いとポイ捨て防止の呼びかけ 等

(2) 都市計画マスタープランワークショップ

1) 調査の概要

- ・開催回数：計 14 回（本町を 7 地域に区分し、各 2 回ずつ開催）
- ・開催期間：平成 22 年 6 月～同年 7 月
- ・参加人数：延べ 133 人

1) 調査結果

景観に関する意見

【景観資源】

具志頭城址、富盛の石彫大獅子、港川フィッシャー、世持井、ガラビ壕、製糖工場の煙突、世名城のガジュマル、当銘のガジュマル、本庁舎のガジュマル、歴史民俗資料館前のフクギ並木、雄樋川や報得川、ギーザバンタ、西部プラザ公園、世名城や安里集落 等

【景観形成に関する提案】

八重瀬岳や具志頭城址一帯からの眺望景観の保全、ぐしちゃん浜の景観保全、ギーザバンタ付近の公園整備、自然に近い河川整備の推進、田園風景・集落環境の保全、歴史的景観資源を保全する方策の検討、建築物の意匠形態に関するルールづくり、屋外広告物の規制条例の制定、国道沿いへの植栽充実、住民主体の緑化運動の活性化 等

(3) 都市計画マスタープランアンケート

1) 調査の概要

- ・対象者：各区長が任意で対象者を選抜（各自治会に20通ずつ配布）
- ・調査期間：平成22年6月～同年7月
- ・回収率：53.8%（配布数660通、回収数355通）

2) 調査結果

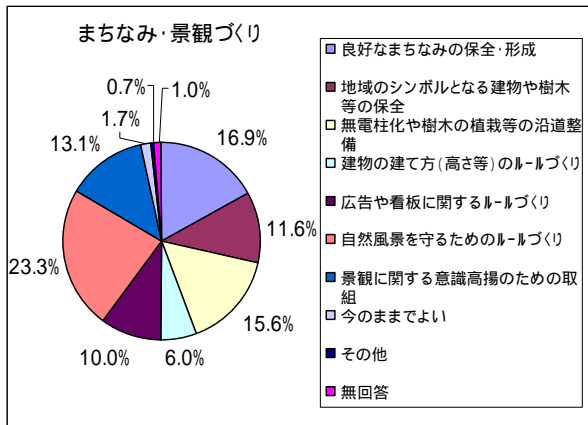
まちなみ・景観づくり

まちなみ・景観づくりのあり方について重要なこととしては、「自然景観を守るルールづくり」(23.3%)が2割強を占めて最も多く、次いで「良好なまちなみの保全・形成」(16.9%)、「無電柱化や樹木の植栽等の沿道整備」(15.6%)の順となった。

「その他」では「町民全体での清掃活動」等が挙げられた。

問7 まちなみ・景観づくりについて

	票	%
良好なまちなみの保全・形成	147	16.9%
地域のシンボルとなる建物や樹木等の保全	101	11.6%
無電柱化や樹木の植栽等の沿道整備	135	15.6%
建物の建て方(高さ等)のルールづくり	52	6.0%
広告や看板に関するルールづくり	87	10.0%
自然風景を守るためのルールづくり	202	23.3%
景観に関する意識高揚のための取組	114	13.1%
今のままでよい	15	1.7%
その他	6	0.7%
無回答	9	1.0%
合計	868	100.0%



自由意見からの景観に関する意見

【景観形成に関する提案】

八重瀬町の自然・文化を生かした地域づくり、歴史・伝統・文化の共有、癒し・ゆとりのある歴史・文化・伝統の復活、緑の保全、緑豊かな地域の保全、緑豊かでまちなみ・景観良く利便性の高いまちづくり、八重瀬岳一帯の整備、小高い丘の保全、具志頭の海岸線地域の整備、川・海の浄化、乱開発の抑制、伊覇・屋宜原地区と他の地域とのバランスを考えた開発・整備、歩道のガードレール腐食箇所の撤去又は取り換え、道路の破損箇所の適期的な補修、幹線道路沿いの景観整備・清掃、道路植栽帯の管理の徹底、道路への植栽(花)等

(4) 農村振興基本計画及び農村環境計画アンケート

1) 調査の概要

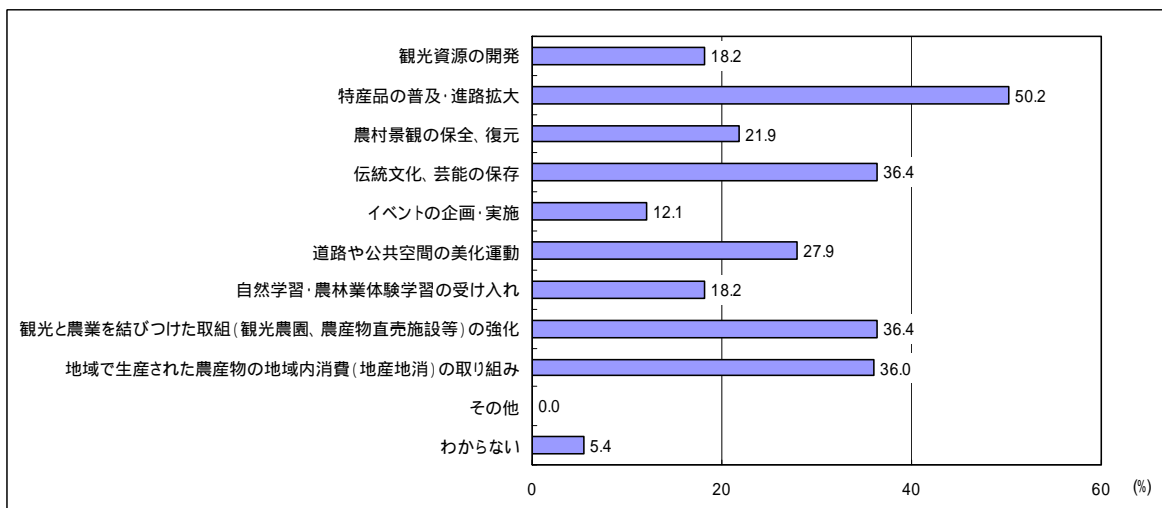
- ・対象者：各区の代表が任意で対象者を選抜
- ・調査期間：平成18年10月29日～同年12月27日
- ・回収率：61.8% (配布数400通、回収数247通)

2) 調査結果

地域活性化に必要な取り組み

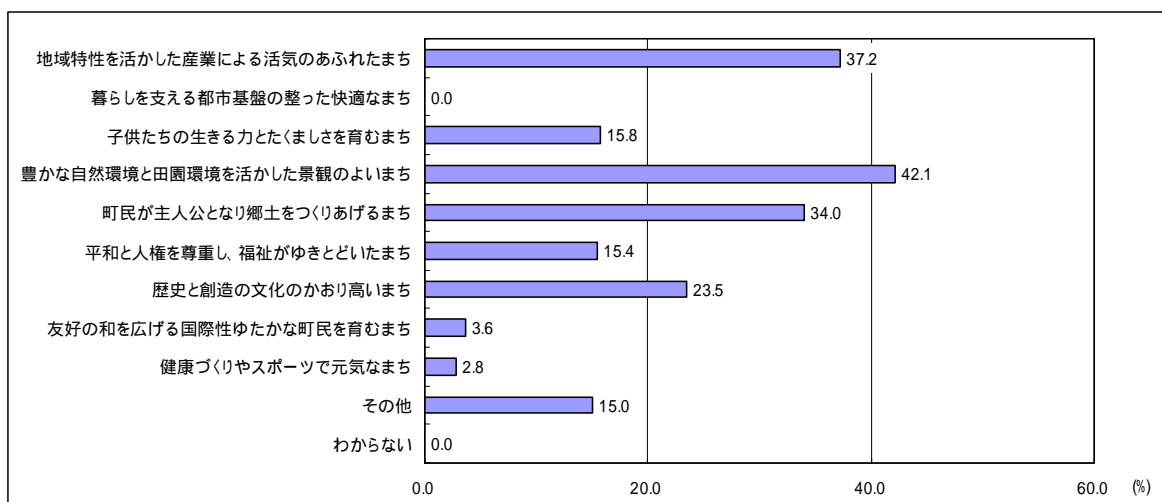
周りの集落等を含めて地域の活性化のために必要な取り組みとしては、「特産品の普及・販路拡大」(50.2%)が最も多く、次いで「伝統文化、芸能の保存」「観光と農業を結びつけた取組(観光農園、農産物直売施設等)の強化」(ともに36.4%)の順となった。

「農村景観の保全、復元」(21.9%)は11項目中6位であった。



農村の将来像

期待する農村の将来像としては、「豊かな自然環境と田園環境を活かした景観のよいまち」(42.1%)が最も多く、次いで「地域特性を活かした産業による活気のあるまち」(37.2%)、「町民が主人公となり郷土をつくりあげるまち」(34.0%)の順となった。



地域資源（誇りや自慢に思えるもの、今後も残していく必要があるもの）

【景観資源（眺望点）】

八重瀬岳、具志頭城址、ギーザバンタ、小城展望台、白川小学校周辺 等

【景観資源（自然的資源）】

八重瀬岳、多々名グスク周辺、与座岳、テミグラグスク、富里山、地域の森、ぐしちゃん浜、港川海岸、玻名城の郷ビーチ、ギーザバンタ、さんご礁、雄樋川、白水川、自然橋、粟石 等

【景観資源（農業・農村的資源）】

土地改良区（碁盤目状に整備された農地）、サトウキビ畑、電照菊、芋畑、漁港・船、朝のセリ市場、パヤオ、木造瓦住宅、赤瓦、ヒンプン、石垣（粟石）、フクギ並木、中の井のアカギ、ガジュマルの古木・大木、井戸（屋富祖井、世持井、川平良井小、ウプガー、新ガー、前当ガー、屋宜川、ヒラナカガー、アダナ河等）、港川公民館、八重瀬公園、西部プラザ公園、長毛公園 等

【景観資源（歴史・文化的資源）】

十五夜祭、エイサー、綱引き、獅子舞、棒術、ウスデーク、新城のシーマヤー、大和人行列・唐人行列、がん甲祭、港川ハーレー、組踊、ウチナー相撲、清明祭、旧正月、八重瀬グスク、多々名グスク、具志頭城址、勢理グスク、伊舎堂墓、港川原人、富盛の石彫大獅子、ニーセー石、汗水節の碑、仲座八煙の跡、自然壕、新里壕、ガラビ・ヌヌマチガマ、安謝名のタウン、地域の御嶽・拝所、方言 等

【景観形成に関する提案】

井戸の浄化（ホタルを呼ぶ）、八重瀬公園の桜を増やす、ぐしちゃん浜に砂を入れる、自然海岸やさんご礁の保全、遺跡を保全し地域の子供達に伝える 等

自由意見からの景観に関する意見

【景観形成に関する提案】

八重瀬岳の上の自衛隊基地の撤去（農村自然景観を大きく損ねている）、地域の花・名木をつくる運動、季節の草木に囲まれた地域づくり、文化的な伝統行事の維持・育成への行政側からの援助、伝統行事への理解を深めて地域の心を1つにする、ポイ捨ての絶対禁止、幹線道路沿いの景観整備・清掃、道路植栽帯の管理の徹底、道路への植栽（花） 等

6 景観計画に盛り込むべき項目の抽出・整理

本章1～5のヒアリング調査及びアンケート調査の結果を受け、景観計画に盛り込むべき項目として、問題・課題、将来像や目指すべき方向性、景観形成に向けた基本方針に関する事項等を以下に整理する。

(1) 問題・課題

1) 自然、緑、農地、水辺、眺望点

緑地、山、河川、海、湿地、鍾乳洞等、本町が有する貴重な自然環境を景観資源として保全する必要がある。

本町には豊かな緑があるが、開発等により減少しつつある。町内の緑を保全するとともに、新たに形成する市街地においては街路樹や住宅地の緑等を創出し、潤いある景観づくりを進める必要がある。

本町に広がる美しい農村景観を保全し、農業と観光産業が連動した景観資源の活用が望まれる。

三面張りの人工的な河川景観を、安全性に考慮した親水空間や自然と共生する多自然型河川としての再整備によって、住民にとって親しめる河川景観づくりが望まれる。併せて、水質浄化等による環境美化が必要である。

海浜やビーチにおいて、漂着ゴミ、護岸の落書きや不法投棄等は住民の憩い空間を阻害しており、乱れた景観をなしている。海辺における快適で美しい景観づくりとしての整備・活用が望まれる。

港川漁港とその周辺は穏やかな港町だが、殺風景な印象も見受けられる。伝統的な漁港の味わいを残しつつ彩りを創出する等、漁業の活性化に寄与する景観形成が望まれる。

山林、農地、集落、市街地、道路、河川、海等、本町のいたる箇所で不法投棄やゴミの散乱が見受けられる。また、畜産施設等からの悪臭、河川の水質汚染等の問題もある。これらの環境対策を良好な景観づくりと併せて進めることが望まれる。

本町にある多くの眺望点を活用するため、眺望点及びその周辺の利便性向上に資する整備が望まれる（アクセスのしやすさ、トイレ・休憩所等）。



【雄大な断崖絶壁がつくる海岸景観】



【農地と集落がつくる農村景観】

2) 集落、歴史・文化

本町は、伝統的な集落形態をなす集落、瓦屋根やヒンプン、フクギ屋敷林、石垣等の昔ながらの家々が残る集落、漁港と一体的に形成された漁村集落等、多様な特性を持つ集落が多く存在する地域である。各集落が持つ景観特性を考慮した集落景観づくりが求められ、その取り組みの1つとして、景観形成に関する

モデル地区の指定及び整備が望まれる。
本町には多様な歴史・文化的資源があるが、その由来や存在意義等を伝承できる説明板・案内板等の設置が少ない状況である。例えば富盛の石彫大獅子が八重瀬岳を向いている理由等、それぞれの歴史・文化資源が持つ背景や意味を理解し、その特徴を踏まえた上での保全・活用が望まれる。



【上江門家】



【世持井】

3) 都市施設整備と景観、屋外広告物

現在、伊覇・屋宜原地区の市街地を中心に都市化が進んでいるが、八重瀬町のリズムに合った穏やかな都市化が望まれており、計画的で秩序ある市街地整備に伴った景観づくりが求められる。

具志頭地域においては、生活利便性の向上と、瓦住宅や石垣等の伝統の保存の両立に配慮した景観づくりが望まれる。

主要幹線道路等においては、電線類地中化等により整然とした道路景観の形成が望まれる。殺風景な道路景観から、沿道の緑陰創出、舗装やガードレールの質感・色彩等に配慮した、快適・安全でゆとりある歩道・自転車道の整備が望まれる。

統一性のある街路樹の配置により、本町の特色を演出した道路景観の形成と、地域住民による道路植栽の維持管理等、住民協働の景観づくりが望まれる。



【伊覇・屋宜原地区の住宅群】



【市街地部の国道507号】

国道 507 号の北側は那覇市や南風原町からの本町の玄関口であり、国道 331 号は西側が糸満市、東側が南城市からの本町の玄関口である。各玄関口において、八重瀬町の特性を活かしたシンボルの配置等、ゲート性のある景観整備が望まれる。



【シーサーがある富盛第二バス停】

本町には、眺望景観の素晴らしい丘や海に面する断崖絶壁、北部に位置する市街地、低地に広がる農地や点在する集落等、多様な景観的特徴を有する地域がある。それぞれの地域が持つ景観特性を保全・活用できる開発のルールづくりが望まれる。

本町の市街地や集落において、周辺に馴染まない色や高さ等の建築物が見受けられ、街並みとしての調和が取れていない部分が少なからずある。まとまりのある美しい街並み形成を目指して、市街地や集落等の地域特性に応じた、建築物の高さ、色彩、意匠等のルールづくりが望まれる。

市街化が進む伊覇・屋宜原地区では、国道 507 号沿いを中心に商業施設等の色や大きさ、デザインが異なる看板が立ち並び始めている。その他の地域でも、看板等の屋外広告物が沿道や集落内等に無秩序に点在している。良好な広告景観づくりのため、屋外広告物の設置場所、表示面積、色彩等のルールづくりが望まれる。

4) 人づくり・体制づくり

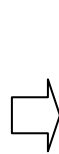
景観づくりには住民等の理解と協力が不可欠であり、住民等の景観に対する意識・知識の向上が求められる。また、行政と協働して先導的に景観形成に取り組む地域のリーダーとしての人材育成が必要である。

住民参加による景観づくりの取り組みはまだ始まったばかりであり、景観形成に関する意識啓発は今後も継続的に行う必要がある。また、一方で、町が専門家を交えて景観行政の体制を整え、住民や事業者等へのリーダーシップの発揮が望まれる。

(2) 将来像や目指すべき方向性

本町の景観の将来像や目指すべき方向性を検討する際、以下のキーワードが想定される。

- 1) 自然や緑が豊かである
- 2) 歴史・文化・伝統が息づいている
- 3) 地域産業が盛んで活気がある
- 4) 人々が交流し、賑わいがある
- 5) 住民が町への愛着と誇りを持っている



八重瀬町の景観づくりに反映

(3) 景観形成に向けた基本方針に関する事項

本町の景観形成に向けた基本方針に関する事項を検討する際、以下の項目が想定される。

- 1) 豊かな自然やダイナミックな地形が織り成す八重瀬町特有の景観の保全・活用
- 2) 山や森(ムイ)に囲まれ農地が広がる昔ながらの農村集落の景観の保全
- 3) 住民の営みと調和し、住民の誇りとなる景観の保全・形成
- 4) 交流・賑わいを生み出し、都市と自然・歴史・文化が共存する八重瀬町ならではの景観形成

(4) その他留意点

その他、景観づくりにおいて留意すべき事項として以下のことが考えられる。

- 1) 人口増加や企業誘致等、町の発展とのバランスに留意した景観の規制・誘導を図る必要がある。
- 2) 都市計画区域外の具志頭地域や、東風平地域の市街化調整区域については、今後の都市計画の動向と整合を図りながら、地域特性に応じた景観づくりを進める必要がある。
- 3) 墓地や農業施設等の工作物については、住民意向を踏まえて秩序ある景観づくりの方向性を見極める必要がある。
- 4) 風の流れ、香り、音(静けさ)等も景観資源として総合的に捉え、心地よい空間として環境整備を進める必要がある。
- 5) 景観づくりは百年の計と言われている。住民や事業者への説明等を含めて、長期的に根気よく取り組む必要がある。